

2026年11月29日(日)

スキルアップセミナー2

11:10 ~ 12:10 | 第4会場（評価室：23号館5階）

[BjbIZyPk] スキルアップセミナー II

司会：寺野 誠

講師：中宿 伸哉（徳島文理大学 教授）

11:10 ~ 12:10

[BjbIZyPk-01] スキルアップセミナー II

スキルアップセミナー2

■ 2026年11月29日(日) 11:10 ~ 12:10 | Ⅲ 第4会場（評価室：23号館5階）

■ [BjbIZyPk] スキルアップセミナーⅡ

司会：寺野 誠

講師：中宿 伸哉（徳島文理大学 教授）

11:10 ~ 12:10

[BjbIZyPk-01] スキルアップセミナーⅡ

スキルアップセミナーⅠ



徳島文理大学 保健福祉学部 理学療法学科 教授

中宿 伸哉 先生

【略歴】

- 2000 年：平成医療専門学院理学療法学科卒業
- 2000 年：医療法人慈和会 吉田整形外科病院リハビリテーション科 入職
- 2010 年：同リハビリテーション科科長
- 2017 年：中京大学大学院体育学研究科修士課程 修了（体育学修士）
- 2025 年：徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科 教授

【著書（編集・共著）】

- ・いつできる？何ができる？整形外科疾患のトレーニングメソッド 羊土社
- ・関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 上肢・体幹、下肢 メジカルビュー
- ・理学療法超音波学 「足関節外傷における超音波を利用した拘縮評価と治療」 運動と医学の出版社
- ・極める変形性膝関節症の理学療法 「変形性膝関節症の痛みの捉え方」 文光堂 他

【論文・雑誌】

- ・「高齢者の膝関節痛の原因」 理学療法ジャーナル
- ・「アキレス腱障害に対する理学療法診断の進め方」 理学療法
- ・「末期変形性股関節症における JHEQ 動作項目と股関節可動性および腰椎機能との関係性について」

Hip Joint

- ・「スポーツ障害に対する運動療法 ー下腿ー」 臨床スポーツ医学 文光堂
- ・「スポーツ外傷・障害の画像評価 ー下肢 スポーツ障害におけるエコー画像 など

ポケット型超音波画像診断装置の臨床活用

超音波画像診断装置は近年小型化が進み、ポケットに収まるサイズのものも普及してきた。電源不要で持ち運びが容易なため、屋外や電源確保が難しい環境でも使用できる点が最大の魅力であり、スポーツ現場をはじめとした様々な場面で活用されている。また、据え置き型と比較して安価であることから、導入のハードルが低いことも臨床現場にとって実用的な利点と言える。本講習では、ポケット型超音波診断装置を用いた臨床活用について、基礎知識の確認と実技を交えながら紹介する。

エコー画像を読み解くには、断面像だけでなく立体的な構造をイメージする力が求められる。日頃からMRIやCT画像を見ておくことがこの力を養う近道になる。加えて、画像上の高輝度・低輝度が何を意味するのも押さえておきたい。骨や腱、靭帯など硬い組織は超音波をよく反射するため高輝度に、水腫や血腫のように水分を多く含む組織は反射が少なく低輝度に描出される。走査方法についても、筋や腱、靭帯、神経といった線維性組織は線維の走行に沿った長軸像と、それに直交する短軸像を使い分けることで、より多くの情報を得ることができる。

本講習の前半では、軟骨、筋、腱・靭帯、末梢神経、血管について、それぞれの典型的な描出像を観察する。腱・靭帯では膠原線維が規則正しく同一方向に配列することで fibrillar pattern と呼ばれる特徴的な像を呈し、腱炎ではこのパターンの乱れや局所的な肥厚、腱内の低エコー域として浮腫を確認できる。

近年は神経自体が疼痛の原因となる病態にも注目が集まっている。末梢神経は神経線維そのものだけでなく、神経を栄養する血管(vasa nervorum)や神経自体に分布する神経(nervi nervorum)を有しており、周囲の炎症や虚血、機械的刺激がこれらを介して疼痛を誘発することがある。すなわち、絞扼性神経障害とは異なる疼痛機序の存在を考慮する必要がある、実際にエコーガイド下で生理食塩水を用いて神経周囲を剥離したり、滑走性を改善させる徒手操作を行ったりすることで疼痛が軽減する例は、こうした機序を裏付けるものと考えられる。

後半では、演者がこれまで取り組んできた症例を中心に紹介するとともに描出方法について実技を行う。足関節周辺の骨折後には長母趾屈筋が脛骨後面部で癒着を起こしやすく、早期から徒手的に滑走性を促す介入が有効である。この滑走動態をエコーでどう観察するか、具体的な手順を示す。また、足関節背屈可動域改善の治療時や歩行中にしばしば生じる前方部痛の一因として、足関節前方の脂肪体や pretalar fat pad の存在が挙げられる。これらの脂肪体は関節包外と関節包内に分かれており、とくに関節包内にある pretalar fat pad の柔軟性改善においては、足関節底屈位では関節包が緊張するため柔軟性が正しく反映されない点に注意が必要である。

限られた時間ではあるが、本講習を通じて明日からの臨床に活かせる視点を持ち帰っていただければ幸いである。